

Q 2 授業における基本的な指導技術（発問・板書・ノート指導）はどうあるべきか。

効果的な発問とはどのようなものか？

A：学習のねらいに沿った分かりやすい発問が求められる。児童生徒の立場に立ち、発問を工夫することにより、授業者の意図が子どもたちに理解され、分かる授業が展開できる。

授業の流れにおけるそれぞれの段階で次のような発問が考えられる。

導入段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を引き出す発問</li> <li>・問題点に気付かせる発問</li> <li>・問題点を明確にする発問</li> </ul>
展開段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを活発にする発問</li> <li>・思考を深める発問</li> <li>・ねらいに迫る発問</li> </ul>
終末段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめるのに役立つ発問</li> <li>・練習や応用・発展を促す発問</li> <li>・次時へのつながりを図る発問</li> </ul>

次のようなことに留意することが求められる。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問がきちんと理解されているかを確認する。（挙手の数、表情、様子等で判断）</li> <li>・教師は発言を減らし、時には沈黙することによって考えさせる。</li> <li>・発問したら考えさせるための時間をとる。</li> <li>・どうしたら次の発言を促せるか、どうすれば学習意欲が高まるか、発問の順序や助言の方法を考えておく。</li> <li>・児童生徒が思考したり、作業したりしているときに、それを妨げるような発問・指示は避ける。</li> <li>・情感を込めて問いかける。（音声、表情、動作に気を付けながら。）</li> </ul>
---

児童生徒の考えを引き出す発問を工夫するために、振り返ってみよう。

チェックポイント	チェック欄
児童生徒の積極的な思考を促すための工夫をしていますか。 ・具体的には、「はい」や「いいえ」だけで答えられるような発問や、一問一答式の発問を避けるなどの方法があります。	
児童生徒に、学習課題に対する自分の考えや意見をしっかりとみせるよう工夫していますか。	
児童生徒の論理的な思考力を育成するための工夫をしていますか。 ・具体的には、意見や考えとその根拠との関係が明確になるような発問をするなどの方法があります。	

効果的な板書とはどのようなものか？

A：板書は、子どもたちが学習内容を理解し、確実に身に付けるために有効な方法であり、常に学習に役立つ板書という視点を忘れてはならない。

板書は次のような点で有効である。

- ・ 学習内容の要点が分かる。
- ・ 思考がしやすくなる。
- ・ 自分のノートがまとめやすくなる。
- ・ 授業の流れが分かり、振り返りがしやすくなる。

板書するのは、次のようなときである。

教師が板書する場面

- ・ 本時のねらいを示すとき
- ・ 学習事項、学習問題（課題）を明確にするとき
- ・ 学習内容で、強調の必要な事項があるとき
- ・ 学習内容が分かりにくかったり、徹底しなかったりするとき
- ・ 学習が次の内容に展開していくとき
- ・ 学習の内容をまとめるとき など

児童生徒が板書する場面

- ・ 自分の疑問や予想、考えを述べるとき
- ・ 自分の思考過程を説明するとき
- ・ 自分が実験したり、調べたりした結果をまとめたとき など

効果的な表記方法をとることが必要である。

構成を考えて書く。

- ・ 構造的に、授業の流れが分かるように書く。（図やイラストを活用する。）

見やすい表記にする。（人権教育上の配慮）

- ・ 文字の大きさは、学年や児童生徒の実態に合わせて書く。
- ・ 色チョークは、児童生徒と約束を決めて使う。

カードや掲示物を併用していく。（授業で必要な資料、カードに児童生徒が考えを書いたものなどを掲示する。）

板書計画を立てることが必要である。

教材研究の際、授業過程に応じてどこに何を書き、どこにどんな資料教材を掲示していくか計画を立てる。

板書が、個に応じたノートづくりの基礎になるように心掛ける。

効果的な板書を工夫するため、振り返ってみよう。

チェックポイント	チェック欄
----------	-------

<p>板書のタイミングに留意していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的には、授業のねらいや学習課題を明確にするとき、学習内容を強調する必要があるとき、学習内容をまとめるときなどが考えられます。</li> </ul>	
<p>板書全体が構造的になるように工夫していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的には、児童生徒の思考の流れを中心とした授業の流れを明確にすることなどに留意する必要があります。</li> </ul>	
<p>ノート指導と関連させた板書となるように留意していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的には、学習課題の確認、共有、焦点化など、子どもたちがノートに書くことによって、効果的な学習活動ができるものを板書するなどの方法が考えられます。</li> </ul>	

## 効果的なノート指導とはどんなものか？

A：最近、教師が自作の教材や資料を用いたワークシートを活用し、子どもの実態の応じた学習活動を展開しているなど、工夫された授業の例が見られる。しかし、いわゆる穴埋め式のようなワークシートにばかり頼りすぎると、子どもが受け身の姿勢で授業に臨むようになってしまう危険性もある。子どもが主体的なノートづくりができるようになり、思考力・判断力・表現力を育成できるようにするためのノート指導を充実させたい。

主体的なノート作りができるようにするために次のようなことを児童生徒に心がけさせるとよい。

- ・教師の説明や板書事項を、自分の表記方法でまとめる。
- ・友達の発言を要約し、自分なりに書き留める。
- ・友達の発言に対して、自分の考えを書いておく。
- ・自分の考えや思ったことを、進んで書く習慣をつける。
- ・書く際の約束ごとを決めておく。(題の書き方、スペースの使い方、記号など)
- ・図や表などを用い、分かりやすく書くようにする。

ノート指導のポイント次のとおりである。

- ・日付を書かせたり、内容が変わるところを空けさせたりする。
- ・学習事項や学習問題(課題)、本時のねらいを書く。
- ・絵や図、色や線を効果的に使ってまとめさせる。
- ・必要に応じて箇条書きでまとめさせる。
- ・自分の考えや感想を簡潔に書く習慣をつけさせる。
- ・教師はこまめにチェックし、適切なアドバイスをする。

効果的なノート指導を工夫するため、ふりかえってみよう。

チェックポイント	チェック欄
ノートづくりの際の約束ごとを決めるなど、具体的な指導を行っていますか。	
発達段階に応じた指導を行っていますか。 ・具体的には、児童生徒の創意工夫によるノートづくりも奨励するなどの方法があります。	
児童生徒がより効果的なノートづくりができるよう指導していますか。 ・具体的には、機会をとらえて教師がノートの状況を確認し、教師が改善のためのアドバイスをするなどの方法があります。	